

福祉だより

# ぬくもり

第125号  
2022年12月18日

西宮市北六甲台地区  
社会福祉協議会  
会長 日高 昭夫

●発行/北六甲台地区社協 ●発行日/偶数月 ●編集/北六甲台地区社協広報部 ●配布エリア/北六甲台・上山口東

## 北ろく秋フェス

## 三年ぶりの北六甲台文化祭

### パネル展示で事業部活動紹介

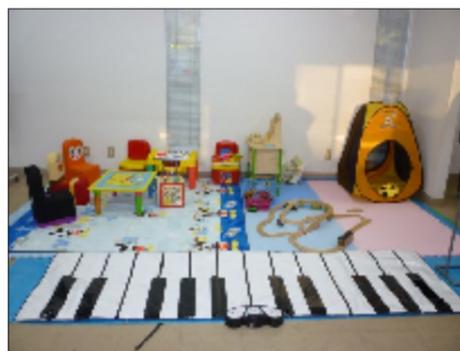
一月三日から五日までの三日間、三年ぶりに開催された北六甲台自治会主催の「きたろく秋フェス」で地区社協の事業部活動をパネル展示で紹介。自治会館A室に各事業部が創意を凝らしたパネルで活動を紹介しました。高齢者福祉部は「敬老祝い訪問」の際にお配りした北六甲台小学校児童のお祝いメッセージを展示。自治会館エントランスにはポランティアセンターの相談窓口も設置。



募金や会員会費のご質問や活動内容へのご意見などが寄せられました。また、今回は、お子さんが自由に遊べる「子ども遊び広場」を設置。遊具で遊ぶお子様の姿が見られました。

### 認知症サポーター養成講座

### 基礎から学ぶ認知症



「きたろく秋フェス」初日の一月三日、北六甲台コミュニティセンターA室で「基礎から学ぶ認知症」と題し、認知症サポーター養成講座が

開催されました。当日は、事前申し込みの定員40人を上回る50名の方の参加がありました。講師の日高昭夫さんから一部「認知症の基礎知識」、二部「認知症のサポート」を学びました。

### 認知症の基礎知識

一部では、認知症は加齢による物忘れではなく、脳の働きの障害であり、早期発見、早期治療により進行を遅らせたり症状の改善がみられたりすること、適度に体を動かす

たり笑顔でコミュニケーションをとることで良い脳内物質(ドーパミン)が出て発症のリスクを軽減できるなどのお話がありました。

メモを取りながら熱心に聞く参加者の姿もみられ、認知症に対する関心の強さが感じられました。

### 認知症のサポート

二部では、まず、認知症になった方をサポートする際の接し方の心得として、「三つの「ない」」、「①驚かせない、②急がせない、③自尊心を傷つけないことが大切」とのお話がありました。また、介護家族の気持ちを理解することや、ご近所さん等、地域全体で認知症の方を見守る「街角見守り活動」が今後求められるとお話がありました。

講座のあと、質疑応答と意見交換の場があり、「車道で認知症の方にお声をかけたが最後まで保護することができず後悔が残っている」「認知症であることを本人が素直に認めてくれるか気がかり」等の六名の方の意見



や質疑がありました。クリニック院長である参加者からも「認知症の可視化を勧めて、ご近所で見守る体制づくりが大切」との助言もありました。

講座終了後のアンケートには「認知症の方への対応がわかりました」「若い方やお仕事をされている方にも講座参加を勧め、地域全体で認知症を理解していくことが大切」などの意見が寄せられました。

認知症は誰もがなりうる病気と捉え、ひとり歩きによる行方不明などの事故防止のためにも、地域での見守りの大切さを改めて感じた講座でした。(広報部 久慈)

## 三年ぶりのふれあい交流会

### 厳冬の一月開催から行楽の十一月開催に

#### 絶好の行楽日和

北六甲台地区社協主催の「ふれあい交流会」(お食事と歓談交流)が、令和四年十一月十四日(月)サンパレス六甲で開催されました。

当日の気候は晴天で絶好の行楽日和でした。三箇所の集合場所から、サンパレスのバス二台を貸し切り、会場入りです。もちろんバス搭乗時には、体温計の測定と手指のアルコール除菌を行い、コロナ感染対策は万全です。七五歳以上の参加者をはじめ役員を含めて八八



名の出席者が無事会場に到着しました。

#### 会場準備と感染対策

会場準備が十時から社協役員やレックスタッフの皆さんで始まり、宴会会場入口に二本の社協のぼりが立てられ「ふれあい交流会」の雰囲気盛り上げます。

一階で出席者の受付を行い、二基のエレベーターが三階の会場へ案内します。会場では、丁目に十四のテーブルが待ち受けます。

感染対策では間仕切りの設置とテーブル毎に五名から七名と人数が絞られた席が用意されています。テーブルには、名札、お弁当、ペットボトルのお茶、紙コップ、マスク収納力パーを用意し着席を待ちます。それぞれのテーブルに出席された方々が、次々に着席されると、会場内がざわつき始め雰囲気も盛り上がります。

#### 三年ぶりに交流会開催



「二〇二二年度ふれあい交流会」が定刻通り十一時三十分になりました。

建築副会長の司会で地区社協の日高会長の挨拶が始まりました。続いて今回多大なご支援を頂いたレックの皆さんの紹介です。四名の方に参加して頂き、会場運営その他に、ご協力をして頂きました。

#### 落語三席の催し

今回の催しは、大阪のアマチュア断家グループ



の皆さんの落語三席です。男性二名女性一名が、それぞれ得意演目を披露されました。約五〇分間に包まれながらあっという間に過ぎました。

一息ついた所でお楽しみのお食事の始まりです。楽しく過ごした後の食事ですが、まだコロナ禍のため黙食が求められました。二段重の会席弁当は「美味しくても量も丁度良い」と、中々の好評です。次回はお喋りしながらの食事となりますように祈るばかりです。

各テーブルの皆さんは、食後のお話し(マスク越し、パーティーション越し)に花を咲かせていました。

#### 閉会

心地よい時間は、また終わるのも早いようです。

司会者の閉会挨拶の後、出席の皆さんをお送りする時間がきました。一階フロアーへ案内し、来られたバスに再度乗車し会場を後にして帰宅されました。

「楽しかった」と出席者の皆さんに喜ばれた「ふれあい交流会」が無事に終了できたのは、関係各位の皆さまの多大なご協力のおかげです。

(広報部 西口)

### ポッチャ大会

## まさかの敗者復活優勝！

十月十日のスポーツの日、市社協主催で山口ホールと名塩ホールをオンラインで結び「ポッチャ大会」が行われました。山口ホールには、障がい者とその介助者・福祉関係ボランティアを含め十チーム(六〇名以上)の参加者があり、参加人数が多い関係でホールを四区画にわけ、正式な距離より少し狭い範囲で行うことになりました。



一回戦の敗者のみ復活戦を組み入れました、これが通常の試合でありえない面白い結果を、生み出すことになりました。北六甲台地区社協は二チーム参加し、私のチーム「障がい者支援部(オレンジ西宮と青葉園通所者二名中心のチーム)」は、一回戦で負け敗者復活戦でも完敗でした。ボールの転がる感覚が最後まで掴めず、九月に自治会主催で行われたグラウンドゴルフのボールの転がり方に苦労したことを思い出しました。北六甲台のもう一つのチーム「北六甲台ボランティアセンターぬくもり」チームは一回戦で我がチームと同様に負け、同じレベルと見ていたところ

ろが、敗者復活戦を勝ち進み、なんと全勝で勝ち進んできた「オレンジ西宮」単独チームと当たり、通常の試合ではありえない市社協独特のルールの面白さでした。(一般的なルールでは敗者復活の勝者は二位までです)協力参加して頂いた山脇さんのお子さんの絶妙な投球が、白いボールを十六センチに寄せ、しかし、相手チームも十六センチと同じ距離、サドンドスをやりましようとして、市社協中川さんの言葉で、再び山脇さんがチームを代表して投げ、山口地域で一位となりました。その後、オンラインに



よる名塩地区の優勝チーム「タンポポの会」と一回限りの投球による試合が行われました。残念ながら「北六甲台ボランティアセンターぬくもり」チームは負けてしまいました。大会を楽しみました。

(広報部 小出)

### 赤い羽根募金報告

ご協力ありがとうございました。

募金額  
万代 18,656円  
コープ 41,540円



## 孤独死の発生と今後の対応

### 北六甲台の孤独死の事例

北六甲台で高齢女性の孤独死がありました。独り住まいのお年寄りが年々増えていきます。現状のままでは孤独死は今後も起こりうると思えます。そこで孤独死の対応について整理してみました。

### SOS発信の環境を

まず孤独死回避のため、自力で回避する環境づくりが必要です。市の「見守りホットライン」(下記参照)は緊急時に簡単にSOSを発信し救助を求められる仕組みです。おひとり住まいの高齢者にぜひお勧めします。

### 地域の見守り活動

次に地域の様々な見守り活動による対応があります。民生委員の高齢者実態把握調査や自治会の回覧板、ゴミステーション当番の引き継ぎ、会費徴収等も見守りの機会です。地区社協の広報紙の全戸配布や秋の敬老お祝訪問などもあります。

### 異変発見時の対応

問題は見守りで異変に気付いた時にどう対応するかという点です。発見者が地域住民であれば、まず担当地区の民

## 西宮市見守りホットライン

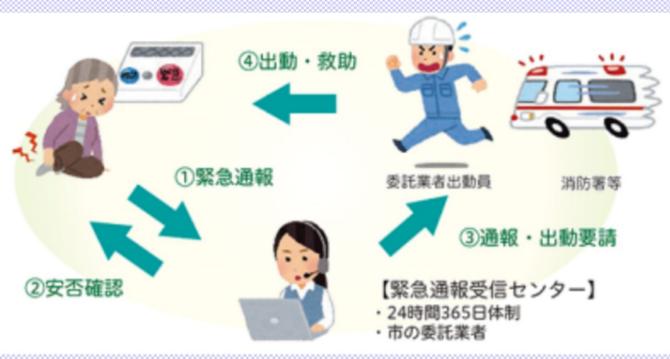
### 事業内容

- ① 利用者が「緊急ボタン」を押しセンターに通報
- ② センターが利用者宅に安否確認→必要に応じてセンターが消防署や委託業者に出勤依頼
- ③ 出動員が利用者宅に急行救急搬送の場合は緊急連絡先に連絡

### ② 二四時間健康相談

- ① 利用者が「相談ボタン」を押しセンターに通報
- ② センターの有資格者(正看護師等)が相談に応じる
- ③ 相談内容で緊急性が高い場合は救急要請等に対応

生委員に連絡し、民生委員から地域包括支援センターに伝え、地域包括警察や消防署と連携して支援に入るといった手順が想定されます。(民生委員 日高)



### ③ お元氣コール

毎月一回利用者宅に電話で健康状態や生活状態を確認

### 利用対象者と利用料金

- 【利用対象者】
  - ① 次のいずれかの該当者
    - ・ 65歳以上のひとり暮らしの高齢者
    - ・ 居住者全員が65歳以上の高齢世帯
    - ・ 昼間又は夜間ひとり暮らしの高齢者
  - ・ 前記に準じる障害者
  - ② 近隣に二親等内親族の居住がないこと
  - ③ 日常生活上の見守りが必要な状態の方
- ④ 緊急通報救助機器設置の希望者
- ⑤ 緊急通報救助機器設置の識別可能者
- 【利用料金】
  - 月額1100円(定額)
  - ※市民税非課税者は無料

### 利用回線と貸与機器

- 【利用可能な回線】
  - NTTアナログ固定電話回線が必要 ※市は携帯電話回線での利用も検討中
- 【貸与機器】
  - 緊急通報装置(本体)
  - 緊急通報装置(ペンダント) 1個



### 問合せ&窓口

西宮市地域共生推進課  
0798 35-3286



司会者の閉会挨拶の後、出席の皆さんをお送りする時間がきました。一階フロアーへ案内し、来られたバスに再度乗車し会場を後にして帰宅されました。

「楽しかった」と出席者の皆さんに喜ばれた「ふれあい交流会」が無事に終了できたのは、関係各位の皆さまの多大なご協力のおかげです。

### ポッチャ大会

## まさかの敗者復活優勝！

十月十日のスポーツの日に、市社協主催で山口ホールと名塩ホールをオンラインで結び「ポッチャ大会」が行われました。

山口ホールには、障がい者とその介助者・福祉関係ボランティアを含め十チーム（六〇名以上）の参加者がありました。参加人数が多い関係でホールを四区画にわけ、正式な距離より少し狭い範囲で行うことになりました。

試合はチーム毎のトーナメント方式で実施され、



(広報部 西口)



一回戦の敗者のみ復活戦を組み入れました。これが通常の試合ではありえ

ない面白い結果を、生み出すことになりました。

北六甲台地区社協は二チーム参加し、私のチーム「障がい者支援部（オレンジ西宮と青葉園通所者二名中心のチーム）」は、一回戦で負け敗者復活戦でも完敗でした。

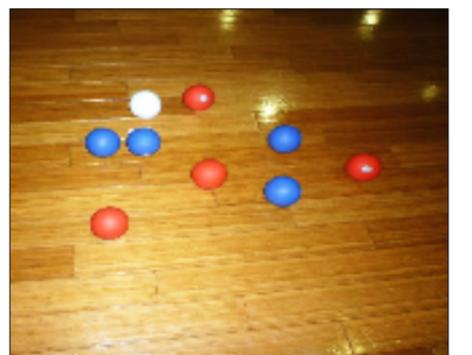
ポールの転がる感覚が最後まで掴めず、九月に自治会主催で行われたグラウンドゴルフのボールの転がり方に苦労したことを思い出しました。

北六甲台のもう一つのチーム「北六甲台ボランティアセンターぬくもり」チーム。一回戦で我がチームと同様に負け、同じレベルと見ていたとこ



ろが、敗者復活戦を勝ち進み、なんと全勝で勝ち進んできた「オレンジ西宮」単独チームに、勝つてしまいました。通常の試合ではありえない市社協独特のルールの面白さでした。（一般的ルールでは敗者復活の勝者は二位までです）

協力参加して頂いた山脇さんの子どものさんの絶妙な投球が、白いボールを十六センチに寄せ、しかし、相手チームも十六センチと同じ距離。サドンドスをやりましようとして、市社協中川さんの言葉で、再び山脇さんがチームを代表して投げ、山口地域で一位となりました。その後、オンラインに



よる名塩地区の優勝チーム「タンポポの会」と一回限りの投球による試合が行われました。残念ながら「北六甲台ボランティアセンターぬくもり」チームは負けてしまいました。大会を楽しみました。（広報部 小出）

### 赤い羽根募金報告

ご協力ありがとうございました。

募金額 万代 18,656円  
コープ 41,540円



## 孤独死の発生と今後の対応

### 北六甲台の孤独死の事例

北六甲台で高齢女性の孤独死がありました。独り住まいのお年寄りが年々増えています。現状のままでは孤独死は今後も起こりうると思えます。そこで孤独死の対応について整理してみました。

### SOS発信の環境を

まず孤独死回避のため、自力で回避する環境づくりが必要です。市の「見守りホットライン」（下記参照）は緊急時に簡単にSOSを発信し救助を求められる仕組みです。おひとり住まいの高齢者にぜひお勧めします。

### 地域の見守り活動

次に地域の様々な見守り活動による対応があります。民生委員の高齢者実態把握調査や自治会の回覧板、ゴミステーション当番の引継ぎ、会費徴収等も見守りの機会です。地区社協の広報紙の全戸配布や秋の敬老お祝訪問などもあります。

### 異変発見時の対応

問題は見守りで異変に気付いた時にどう対応するかという点です。発見者が地域住民であれば、まず担当地区の民

### 西宮市

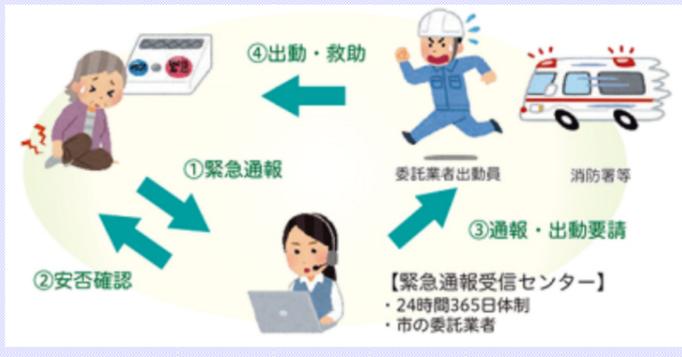
## 見守りホットライン

### 事業内容

- ① 緊急通報の受信と対応
- ② 利用者「緊急ボタン」を押しセンターに通報
- ③ センターが利用者宅に安否確認←必要に応じてセンターが消防署や委託業者に出勤依頼
- ④ 出動員が利用者宅に急行
- ⑤ 救急搬送の場合は緊急連絡先に連絡

### ② 二四時間健康相談

- ① 利用者が「相談ボタン」を押しセンターに通報
- ② センターの有資格者（正看護師等）が相談に応じる
- ③ 相談内容で緊急性が高い場合は救急要請等に対応



### ③ 24時間ヘルプ

毎月一回利用者に電話で健康状態や生活状態を確認

### 利用対象者と利用料金

- 【利用対象者】
  - ① 次のいずれかの該当者
    - ・ 六五歳以上のひとり暮らしの高齢者
    - ・ 居住者全員が六五歳以上の高齢世帯
    - ・ 昼間又は夜間ひとり暮らしの高齢者
  - ・ 前記に準じる障害者
  - ② 近隣に二親等内親族の居住がないこと
  - ③ 日常生活上の見守りが必要な状態の方
  - ④ 緊急通報救助機器設置の希望者
  - ⑤ 緊急通報救助機器設置の識別可能者
- 【利用料金】
  - 月額一〇〇〇円（定額）
  - ※市民税非課税者は無料

### 利用回線と貸与機器

### 【利用可能な回線】

NTTアナログ固定電話回線が必要 ※市は携帯電話回線での利用も検討中

### 【貸与機器】

- 緊急通報装置（本体）
- 緊急通報装置（ペンダント）一個



### 申請から利用までの手順

- ① 申請書の提出
  - 利用者の氏名、生年月日、住所、電話番号、電話番号、世帯状況、世帯員氏名、緊急連絡先等
- ② 利用調査表
  - 持病、かかりつけ医、介護認定、身障者手帳等
- ③ 利用同意書兼承諾書
  - 個人情報利用、鍵の預託、住居内立入り、緊急時の住宅等の一部破壊、機器の管理・賠償責任、機器の返還、利用料の納付等
- ④ 委託業者から工事日程調整の連絡
- ⑤ 自宅の鍵を市の委託事業者（大阪ガスセキュリテイサービス）に預ける

### 問合せ＆窓口

西宮市地域共生推進課  
〇七九八  
三五二二八六

